

All About Pegasus



私たちのすべてを。

『ペガサスの約束』

すべての真ん中にあるのは、患者さまです。
はりつめた瞬間も、案ずる時間も、
そしてゆるやかな日々も、ともに過ごします。
すべてを支えているのは、人と、町とのきずなです。
どこから見ても、誰にでも、
よくわかる病院であり続けます。
ふるえる心に、よりそい。
待ちわびる思いへ、語り。
新たな願いと、手をたずさえ。
一つひとつの生命を、まっすぐにどこまでも
見つめていきます。

Message —— 理事長挨拶

激動する医療界にあって、私たちペガサスグループはつねに人と社会の求めに応じて、あるいは流れゆく時代の求めに応じて、進化し、変化し続けてきました。今後とも、この変化は続きます。変えるべきところは、これからも大胆に変えていく勇気を持たなければならないでしょう。しかし、私たちには、守るべきものがあります。患者さまを第一に考える視点と、地域に根ざすという立脚点の二つです。この二つは、未来永劫、決して変えることなく、守り続けていきたいと思います。その根底には、創設者から受け継がれてきた「真剣に医療に取り組む姿勢」が脈々と息づいています。私たちペガサスグループは、今後共この姿勢を守り、患者さまを見つめ、地域に根ざして、地域とともに歩み続けることを、誓います。

私たちの理念や思い、創設者馬場満から受け継がれてきた精神を、皆さまにお伝えしたく、巻頭にペガサスグループの歩みを記したページを設けました。ある時はつまずき、ある時は試練を受け、必ずしも華々しいだけの歴史ではありません。しかし、ささやかではありますが、地域医療に貢献し続け、地域医療の明日に向かって、恐れることなく挑戦し続けた歴史を、皆さまとともに振り返ることができれば、と考えました。ぜひご一読ください。また、後半は、診療部を中心として、ペガサスグループの「現在」を正確に記録し、ペガサスグループの持てる力を皆さまにお知らせするページとしました。あわせてご覧いただき、私たちのすべてを知っていただくことができれば幸いです。



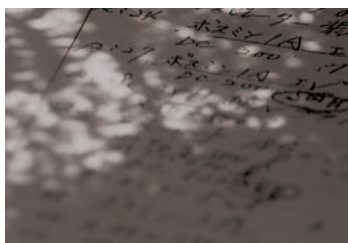
医療法人ペガサス理事長
馬場武彦

●創業期

“すべての真ん中にいるのは患者さま”、
という真摯な思い、真剣な取り組みが、
この時育まれた。



創設者 馬場 満
(1927～1998)



創 設者馬場満、
昭和52年、大阪府和泉市に
馬場病院を開設。

まだ戦後の混乱が続く昭和28年、創設者馬場満は、大阪市西成区に馬場医院を開設。適切な医療を求める人々のために、身を投げ打って医療に従事しました。地域に根ざし、求める人に求められる医療を提供したい、という医師馬場満の強いこだわりは、この時期に芽生え、そして育われました。

馬場満は、和泉市に馬場病院を開設。医療法人ペガサスの萌芽となります。ここでも、馬場満は、時間を惜しまず、身を削って献身的に働き、馬場病院はいくつかの診療科を擁し、60床のベッドを持つ中堅病院として完成の域に達しました。馬場満は、真面目に医療に取り組む医療人であったと思います。その基本的な姿勢は、次々に生まれた診療科にも引き継がれました。各診療科の医師が、それぞれ自分の診療科の領域で、真面目に医療に取り組み、正しいと思うことをしてきました。馬場満をはじめとする医師、看護婦、職員らのそうした真面目な姿勢、熱心な姿勢が、地域の患者さまには、き

っと頼りがいのあるものに映っていたことでしょう。そうして、馬場病院は、信頼を築いていったのです。

地 域に根ざし、信頼を獲得し、
そして第二の拠点、
馬場記念病院が誕生しました。

馬場病院には、深夜まで煌々と灯がとまり、どんな時でも、決して救急搬送される患者さまの受け入れを断ったことはない…、多くの患者さまがそれは決して嘘でも、大げさでもないことを身をもって体験する中で、馬場病院は、地域になくってはならない病院として、確かな地歩を築いていきました。そして、昭和59年、堺市に、馬場記念病院が開設されました。当時としてはかなり大きなスケールの病院であったといえるでしょう。

馬場満は、つねづね「民間で、大学病院以上の高度医療がしたい」と語っていました。設備であれ、技術であれ、つねに最高のものを患者さまに提供したい、それは、まだ決して豊かとはいえない時代に、医療を実践した者の痛切な思いであったのかもしれませんが。馬場満は、この馬場記念病院で、自らの夢でもある、最先端医療へのこだわりを実現しました。

●改革前期

改革への着手、
しかし、暗中模索の
時期が、続いた。

最 先端の医療設備を整えた
馬場記念病院、しかしすべてが
順調であったわけではありません。

馬場記念病院には、採算を度外視して、当時最高水準の医療設備を整備するなど、医療の近代化、高度化に対する布石が細部にわたって、ほどこされていました。地域からの馬場病院への信頼を受け継ぎ、患者さまから高く評価され、患者さまの数は、年とともに増え続けていました。しかし一方で、現実問題として、設備などの初期投資が思いのほか経営を圧迫していました。また、一人ひとりが正しいと思ったことをする、という基本的な路線は、急激な規模の拡大と共に、組織としての統一感を欠くことの遠因となり、ともすれば「効率性の追求」という視点が弱くなりがちでした。

開設から八年後、この事態の打開のため、現理事長である馬場武彦が、当時在籍中の九州大学から呼び寄せられました。彼の目の前には、なすべきことが山積していました。

さ さやかだけれど、
確かな改革の一步。
患者さま第一への転換。

馬場武彦は、さまざまなルールの変更に取り組みました。人手が不足し、誰もが多忙をきわめていた時代です。誰もが、さらに高い給与か、あるいは時間的な余

裕を求めています。馬場武彦は、こうした状況に対して、公平感のある労働環境づくりを働きかけました。また、とにかく会議を開くことを習慣づけようとなりました。何事も、民主的に、合理的に、みんなの意見を集めて、検討する、あるいは目標を作る、それに向かって努力するというスタイルを作り上げたのです。これらの施策は、ある程度定着していきました。しかし、適切な医療を効率的に提供し続けるというところまでは、なかなか至りませんでした。「一人ひとりが正しいと思ったことをする」という姿勢を、「一人ひとりが正しい病院を実現するために努力する」という姿勢に切り替えていかなければ、何も解決しないのでは？馬場武彦はそう考えていました。「もっともっと患者さま第一の姿勢を徹底しなければ…」、それが彼の頭の中に描かれていた改革のビジョンの原点だったのです。この時期のさまざまな改革は、確かに馬場記念病院の改革の萌芽であり、第一歩ではありましたが、現実的には、問題の表層部分をなぞるだけのものではなかったのです。暗中模索の時期が続きました。



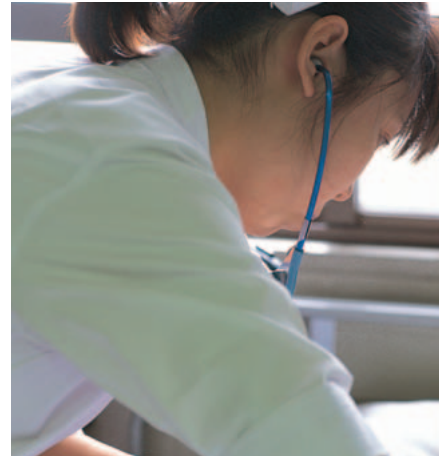
● 転換期

明日へのビジョンが
明確になるにつれて、
私たち自身が
変わりはじめていた。



改 革の骨子が決まり、
ペガサスグループにとっての
一大転機が訪れます。

平成5年、高齢化社会の到来と、その対応の必要性が、新聞やマスコミをにぎわせるようになっていました。馬場武彦は、これからの時代に向けて、あるべき姿の病院を模索する時、もはや急性期だけの病院では立ち行かないだろうと感じていました。また、年々めざましいスピードで向上していく医療技術に対応できるスペシャリストが、さらに必要であることも痛感していました。馬場武彦は、これらの状況を踏まえ、これからはケアミックスと看護基準の取得が絶対必要だとの信念を得るに至りました。そして、馬場記念病院を、急性期医療から地域包括的医療へ向けて、シフトしていくことを決意しました。この時こそ、ペガサスグループの一大転機であったといえます。このため、まず療養病棟をつくり、病状が安定された患者さまが療養できる環境を整え、急性期医療とのケアミックスを実現させました。一方、看護婦の獲得にも本腰を入れ、看護基準を取得するために付添婦を全廃し、さらに正看護婦を増やしていくよう努めていきました。看護婦の募集に際して、馬場武彦が、当院の目指すべき姿として掲げた言葉に、『正しい病院』というフレーズがあります。簡潔で簡単ではありますが、当時の馬場武彦の改革にかけた思い、そして方向性



が、はっきりと出ています。この言葉に共感し、共に改革に向けて働く人が、ペガサスに集まってきました。

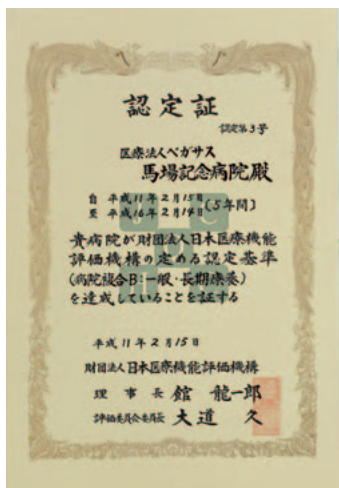
医 療法人「ペガサス」誕生。
そして「ペガサスの約束」
制定。

平成7年夏には、法人化を実現。法人の名称は、「ペガサス」と決められました。こうした改革は、馬場記念病院が自ら抱えた課題を解決していくために、はじめたものです。しかし、当時の医療界の動向、あるいは時代の変化、そして患者さまの変化に見事に同調していることがわかります。馬場記念病院、そしてペガサスグループの改革は、今や、時代の要請にもとづき、地域の患者さまの期待に応えるための「質」を求められるようになったのです。

一方で、ペガサスの理念を明文化した『ペガサスの約束』が同時期掲げられました。そこには原点に立ち返りながら、未来を見つめてビジョンを描き続けるという病院のあるべき姿が明確に映し出されていました。この『ペガサスの約束』は、ペガサスで働くすべての人が共有する言葉として、この時、皆の心にしっかりと刻み込まれました。さらに、平成9年には地域とペガサスで働く全職員に向けて、ペガサスの明確なビジョンを示すシンボルマークが発表されました。これらは、馬場記念病院が開設されて15年、紆余曲折を経ながら、改革に着手する中で、みんなで悩みながら、学び、行動し、そして明日に向かって、私たちはどうあるべきかを考え続けてきた、ひとつの成果であるといってもよいでしょう。

●発展期

変えるべきところを
変え、守るべきところを守り、
地域とともに生きる
医療ネットワークへ。



地域包括医療への
取り組みが本格化。
訪問看護ステーション、開設。

慢性期病棟が一定の成果をあげようになると、退院されていく患者さまの生活を考える必要が出てきます。平成7年12月「訪問看護ステーション」が開設されました。医療費の削減、高齢化社会を背景として、在宅医療という言葉が、頻繁に聞かれるようになった頃のことです。また、拡大し続けるペガサスグループの組織に対応するため、法人本部を設置し、トップの意思決定が速やかに組織全体に行き渡るような機構改革に取り組みました。

さらに、第三者病院機能評価を受審し、平成11年2月には、その認定を受けました。受審への取り組みは一年前から始まり、さまざまな部署で、改善活動が展開されました。いわば、この機能評価受審は、ペガサスグループの改革の途上であって、改革の成果を一つひとつ、グループ内のすべての部署、あるいは関係するすべての人々により、確認し、検証していく機会であったといえます。

地域医療を支え、地域住民の健
やかな暮らしを守る
トータルヘルスケアネットワーク。

今、医療界は激動期といわれていますが、ペガサスグループにあっては、『ペガサ

スの約束』に掲げられた「患者さま第一主義」と「地域医療への貢献」という基本的な考え方が、決して変わるものではない、と確信しています。この方針にもとづいて、すでにはじまっている「開放型病院」をさらに強化し、地域住民、あるいは地域医療機関との連携を深めたいと考えています。

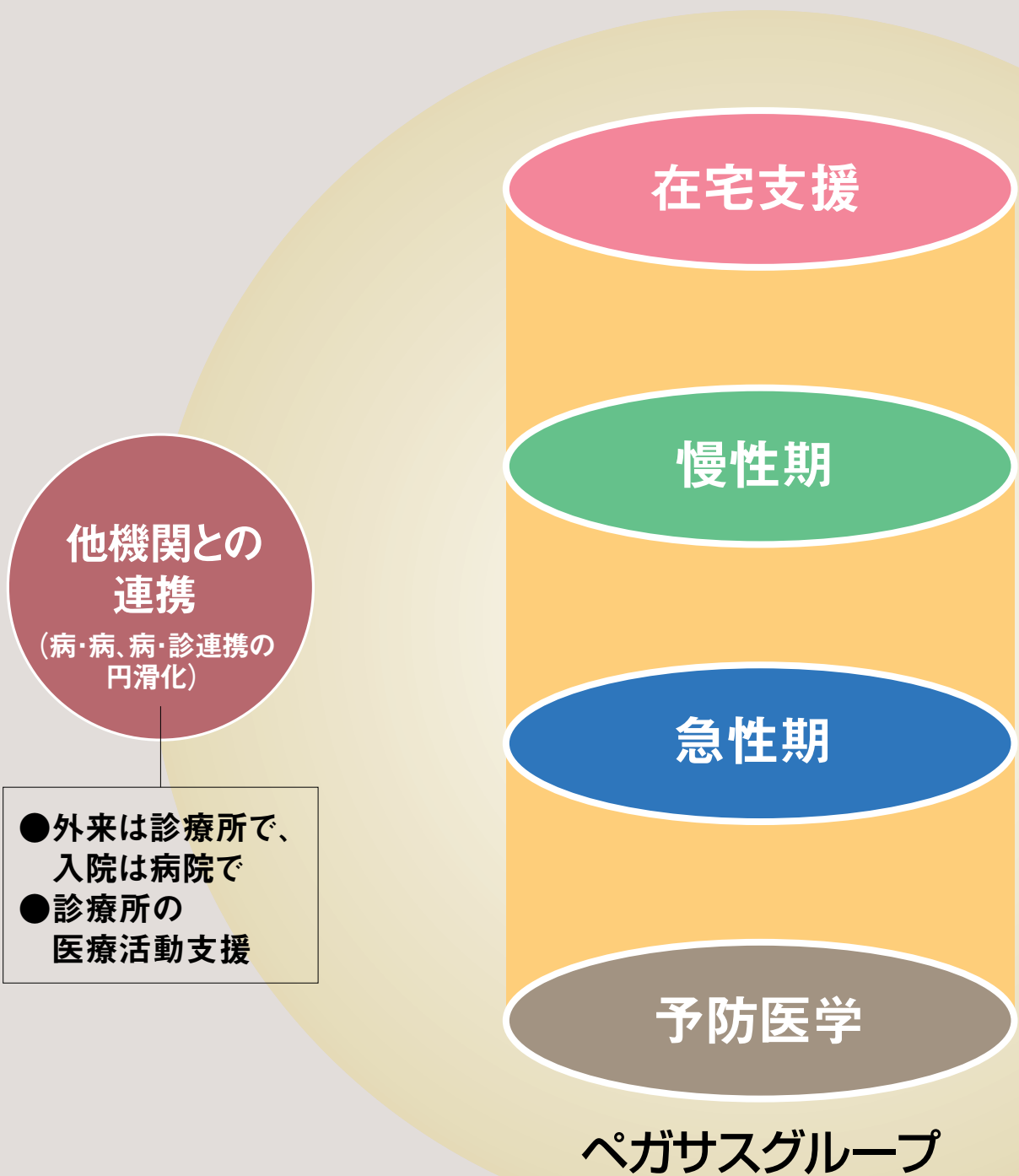
平成12年度スタートの介護保険については、有限会社ユニコを設立して対応していきます。馬場記念病院、馬場病院という二つの高度医療技術を持つ医療機関を核として、医療、保健、介護という広範な分野にわたるトータルヘルスケアのネットワークを築き、さらに強固なものとしていきたいと考えています。いずれにせよ、大切なのは、ペガサスの「これから」であり、私たちの生きる地域の「未来」です。ペガサスの改革は、まだまだこれからであり、未来に向けて永遠に続いていきます。



ペガサスグループ医療領域図

この町の人々の安心と健康を支える
高度医療ネットワークとして。
この町の明日へ、大きく翼を広げたい。

ペガサスグループ 機能と役割



昭和52年、創設者馬場満によって開設された馬場病院を起点として、地域医療の道を一貫して歩み続けてきたペガサスグループ。馬場病院と馬場記念病院の2院を施設医療の核として、長年にわたって磨きあげた救急医療体制のさらなる進化、高度化をはかると共に、慢性期医療への取り組み、在宅療養中の患者さまへの医療支援体制や療養支援、介護支援、そして予防医学領域への取り組みなどを順次拡大してまいりました。

また、地域医療機関、行政の福祉・保健活動との連携にも積極的に取り組み、トータルに地域の皆さまの健やかな生活を支え、地域と共に生きる医療ネットワークとしての役割をさらに強化していきたいと考えています。

ペガサスグループ

●施設医療分野

馬場記念病院

〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東4-244
電話 0722-65-5558 (代表)

馬場病院

〒594-0002 大阪府和泉市上町81
電話 0725-43-2010 (代表)

●在宅医療・介護分野

ペガサスケアプランセンター

(馬場記念病院内併設)
〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東4-244
電話 0722-65-6767 (直通)
0722-65-5558 (代表)

ペガサスケアプランセンター和泉

(馬場病院内併設)
〒594-0002 大阪府和泉市上町81
電話 0725-43-2010

ペガサスケアプランセンター忠岡

(ペガサス訪問看護ステーション忠岡内併設)
〒595-0811 大阪府泉北郡忠岡町忠岡北
1-3-17 エトワールサンク忠岡1階
電話 0725-31-0014

ペガサス訪問看護ステーション

〒593-8328 大阪府堺市鳳北町10-7
電話 0722-65-7778 (代表)

ペガサス訪問看護ステーション和泉

〒594-0083 大阪府和泉市池上町1-4-101
電話 0725-44-6003

ペガサス訪問看護ステーション八田

〒599-8265 大阪府堺市八田西町2-6-4
電話 0722-78-9960

ペガサス訪問看護ステーション忠岡

〒595-0811 大阪府泉北郡忠岡町忠岡北1-3-17
エトワールサンク忠岡1階
電話 0725-31-0014

ペガサス訪問リハビリテーションセンター

(馬場記念病院1階)
〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東4-244
電話 0722-65-9196

ペガサスデイケアセンター

(馬場記念病院1階)
〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東4-244
電話 0722-65-9319

ペガサスデイケアセンター和泉

(馬場病院4階)
〒594-0002 大阪府和泉市上町81
電話 0725-43-3571

ペガサス在宅サービスセンター

(馬場記念病院1階)
〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東4-244
電話 0722-65-5558

ユニコ訪問介護ステーション

〒592-8341 大阪府堺市浜寺船尾町東3-304
電話 0722-65-1500

福祉・保健活動
との連携

- 地域住民に対する啓蒙活動
- 地域福祉のコーディネーター

馬場記念病院

ペガサスグループの
高度医療と地域医療を担う、
地域医療支援病院として。

あらゆる場面で、患者さまと接し、

あらゆる医療ニーズに応える、

地域医療支援病院として。



脳神経外科

年間手術件数400件超。つねに緊迫した状況下での、適切な判断と的確な治療技術をお約束いたします。



脳神経外科は、頭部外傷や神経系の腫瘍、脳血管閉塞性疾患（脳血栓、脳梗塞など）、出血性疾患（くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳出血など）、感染性疾患（脳膿瘍、髄膜炎など）から、脊椎・脊髄の疾患（椎間板ヘルニア、脊椎管狭窄症、脊髄損傷など）など、中枢神経系のあらゆる疾患を扱う診療科です。さらに最近では機能的脳神経外科として、顔、まぶたのピクツキなどが起こる顔面ケイレンや、顔に強烈な痛みを引き起こす三叉神経痛の外科的な治療も行い、ますます扱う分野が増えてきています。当院の脳神経外科は、一民間病院でありながら大阪府南部の地域で、創立以来、「脳神経外科に強い病院」という評価をいただいております。年間400件を

超える手術を扱っています。このため、最先端の医療機関でも手掛けていない症例にも対応可能なノウハウを身に付け、最新の技術を磨いています。また近年、驚異的な進歩を遂げたカテーテル（細い管）による脳血管内の手術にも取り組んでいます。これまで開頭術でしか治療できなかったある種の疾患も手術しなくて治療が可能になりました。緊急性が高く、生命に関わることの多い脳神経外科の疾患は、いつも合併症や後遺症の発生や死と隣り合わせであるといっても過言ではありません。しかし、当診療科ではつねに最新の情報を取り入れ、日進月歩で進化する設備、テクニックに対応し、このリスクをいかに少なくするかに力を注いでいます。

INFORMATION

脳神経外科では、最先端の技術を積極的に取り入れるだけでなく、伝統的な、すでに確立された基本的な治療法を根幹にすえています。最新の治療法を取り入れるためには、この基本的な技術が前提となる、との考え方によるものです。たとえ先端の機器が扱えても、その機器による治療しかできないのでは、さまざまな突発的な事態にも柔軟に対応できないことになります。病気にあわせて、さまざまな対応ができること。もっともふさわしい治療法の見極めができること。こうしてはじめて、リスクを減らし、患者さまに安心していただける治療が提供できるのです。

脳神経内科

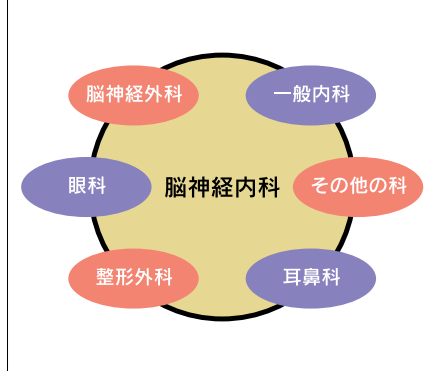
体中に張り巡らされた神経の病気を診る脳神経内科。あらゆる身体の一部が対象となります。



脳神経内科や神経内科と聞くと、多くの
人(医師、看護婦を含む)は「気の病を
診る科」などと考えるのではないでしょ
うか。つまり、精神科と混同しているの
です。当然、「精神」と「神経」とがま
ったくの別物であるように、「精神科」
と「脳神経内科(神経内科)」とは、ま
ったく異なる診療科です。具体的には、
脳とこれにつながる脊髄、枝のように体
中に張り巡らされている末梢神経の病気、
さらに筋肉の病気を対象とします。神経
に異常が起きると、手足の力が無くな
ったり、歩けなくなったり、物が二重に見
えたり、めまい・頭痛・吐き気・意識消
失・けいれんが起こったり、感覚が鈍く
なったり、しびれたりします。脳神経内
科とは、体中に張り巡らされている神経

を診る科ですから、身体の中で関係の無
い部位は無いといっても過言ではありま
せん。(精神科・心療内科の領域である、
精神や性格の異常に伴う症状、不眠、イ
ライラ、うつ病、更年期障害などは対象
とはなりません。)

各科の受け持つ脳神経の病気の範囲



INFORMATION

欧米では、19世紀から脳神経内科はポピ
ュラーでしたが、日本では脳神経外科に比
べ神経内科の設立が遅れたため、脳と神経
の病気は脳神経外科(または神経科)とい
う誤解ができてしまいました。脳神経内科
と脳神経外科との関係は、消化器科におけ
る消化器内科と消化器外科のようなものです。

内科（循環器／呼吸器）

地域に先駆け、最先端技術を導入、
緊急疾患にも24時間体制で、高度な医療を提供します。



当院の内科は、もともと救急対応の循環器内科、呼吸器内科を中心とした救命医療としてスタートしました。現在では、腎臓内科（人工透析）、内分泌・代謝、消化器などへ対象領域が広がっています。循環器内科に関しては、この十年くらいに飛躍的に医療技術が進歩してきています。その筆頭が、カテーテルによる治療。これは外科医の手術と同じで技術が命です。この高度な医療技術に磨きをかけるため、国内研修はもちろん海外研修も行つてつねに臨床に密着した医療を続けています。急性心筋梗塞などは、いつ発症するかわかりません。患者さまの立場に立ち、患者さまにとって最適の治療方法は何かと考えるところから、24時間いつでも検査、治療できる体制を整え

ています。かつて急性心筋梗塞などは、安静にする以外に根本的な治療法がありませんでしたが、カテーテル治療の導入によって救命率も高まり、当院での心筋梗塞による死亡率は現在3.6%まで減少しています。もちろん退院までの入院日数も三週間程度に減り、心不全の合併や心室瘤や不整脈などの後遺症もたいへん少なくなりました。呼吸器科では、急性気管支炎の治療から、肺炎、気管支喘息、肺気腫などの治療を行っています。また、気管支鏡による検査で診断をすばやく確実にしています。慢性呼吸不全の患者さまには在宅酸素療法も行うなど、とすれば長期化する呼吸器系の病気に関して、在宅療養生活が可能で環境づくりを進めています。

INFORMATION

当院のカテーテル室は、「循環器内科の手術室」と呼ばれています。動脈硬化により細くなった冠動脈をバルーン付きカテーテル（細い管）で拡張するPTCA、動脈硬化巣をカッターで削り取るDCA、また、ステンレス製の管を動脈内に留置し、再び冠動脈が細くなることを防ぐステントなど、さまざまな最新技術を取り入れています。これらの治療を組み合わせることにより、これまで不可能と思われていた治療を可能にし、再狭窄という問題にも挑戦しているのです。

外科

最新の技術を取り入れ、
身体にメスを入れない治療のあり方を追求しています。



当科では、消化器、および乳腺、甲状腺、副腎などの内分泌外科、さらに救急病院ですので、気胸など、一部の呼吸器外科領域も対象としています。なかでも当科が主としているのは「消化器」系、つまり胃腸をはじめとして、肝臓、すい臓などの分野になります。わが国の外科では、患者さまに対して、手術が必要かどうかという判断を外科医が行います。本来、手術の必要がない患者さまにまで手術をすることがないように、また、必要以上に大きな手術をしないように、適切な判断が求められます。十年くらい前までは、大きく切除するということが外科の大勢だったのですが、現在では、必要なだけに抑えるというように変わってきています。典型的なのは乳がん。現在の常識で

いえば、温存手術ということが当たり前になっています。また傷を大きくしないために、腹腔鏡手術というのが重視されるようになりました。これによって大腸や胃を一部切除したり、副腎の手術などにも一部用いられるようになりました。こうした技術によって早期に退院でき、速やかにもとの暮らしにもどっていただくことができるようになりました。ヘルニア、痔、胆石の他、大腸のポリペクトミー、ポリープ型の早期癌であれば内視鏡的摘除術（ポリペクトミー）で開腹せずに治療することができます。心臓の血管検査なども対象となります。大学病院との共同研究で、新しい技術ノウハウをどんどん吸収し、治療に役立てています。

INFORMATION

当院では、デイサージェリー（日帰り手術）を実施しています。最先端の技術により、胆石や早期の大腸ガンなど、さまざまな手術が、朝入院して、夕方には退院する、あるいは一泊して翌日退院するということが可能になっています。もちろん決して無理をして早く退院するのではなく、患者さまの状態をよく観察して判断しますが、長期にわたって休むことができない働き盛りの方にとっては、きっと朗報となることでしょう。当院ではすでに平成10年から取り組みをはじめ、多くの実績を持つに至っています。

整形外科

患者さまそれぞれの生活に合わせた、
最適の社会復帰を考えて、治療にあたります。



整形外科とは人間の身体の運動器官、つまり手足や腰などの骨・関節・筋肉・靭帯・腱・脊髄・神経などの病気や外傷を対象としています。しかし、整形外科の治療は、単に病気やケガを治すだけではありません。患者さまにいかにか早く社会復帰してもらうか、外傷などを受ける以前の生活に戻っていただくか、ということのポイントとしています。もちろん、患者さまによって、社会的背景や生活はさまざまですから、それに応じた対応が必要ということになります。たとえば、青壮年期の患者さまは、ほとんどの場合、仕事を持っておられますから、以前の仕事に戻ることができることを前提として治療を進めます。最近では、高齢者の方が

増えています。高齢者の場合、入院が長引くことで、痴呆という問題も出てきます。なるべく早く退院していただきご自宅で介護していただくこととなりますが、目標としては、この介護量をいかに減らして、ご家族の負担を軽減するかということを考えます。また、高齢者においても「人」として豊かな生活を手に入れるためには、適度なスポーツや旅行ができるよう、骨関節の機能が充分であることが必要だと思います。当院は、救急指定の病院であるため、一年間で750件余の症例を扱います。このため、さまざまなノウハウを蓄積し、あらゆるケースに適切な対応をすることができます。

INFORMATION

整形外科における治療技術もどんどん進化しています。骨髄の損傷を防ぐため、切開しない方法が確立されてきました。この方法によると、治癒が早いため、関節周辺の骨折の場合など、早期に運動を再開でき、関節が固まってしまうことを予防できます。また、骨折によって欠損し、短くなった骨を伸ばす方法なども生みだされています。当院ではこうした最新治療技術も随時取り入れて、治療にあたっています。

形成外科

顔、皮膚など、目に見える部位の疾患を、本来あるべき姿に回復させるのが形成外科です。



形成外科と聞いて、その診療内容がすぐ思い浮かぶ人は少ないのではないのでしょうか。あるいは整形外科と混同されている方も多いと思います。形成外科は、「手術、切除を必要とする皮膚疾患」を対象として、「皮膚が本来、あるべき姿に回復させる」ための診療科であるといえます。つまり、「目にみえる部位の外科」。扱う疾患は、主に外傷、腫瘍など。この中には、火傷の跡、手術後の傷跡、治療跡なども含まれます。また、褥瘡（床ずれ）や顔やあごに関しては骨折なども扱いますし、人間の身体のすべての部位が対象となるわけですから、取り扱う疾患は、かなり幅広いといえます。たとえば、「以前から気になっていた顔のできものやほくろ」「手術後、病気は回復したが、

傷跡が引きつれてピリピリする」・・・など、「治らないかもしれない」「できものやほくろをとると跡が残るのでは?」などと考えて、治療を諦めている方も多いかもしれません。もちろん、すべてがまったく元通りになるというわけではありませんが、現代の医学の進歩、あるいは当院医師の豊富な経験などにより、かなりのレベルで、満足のいく治療が行えるといっているでしょう。また、対象とする部位が幅広いため、他の診療科との連携、協力によって、治療を行う場合も少なくありません。たとえば顔面・頭部の外傷などに関しては、脳神経外科、整形外科、外科など関連各科の専門医と協力して治療にあたっています。



INFORMATION

ワキガで、人知れずお悩みの方も、多いのではないのでしょうか？また、ワキガは、遺伝、体質と諦めてみえる方も多いはず。しかし、ワキガは本来、腋の下にある汗腺の問題。このため医学的な皮膚の治療によって、比較的簡単に治療することができます。傷跡もあまり目立ちません。しかも現在では保険が使えるようになっています。ぜひご相談ください。

泌尿器科

尿に異常を感じた時、ご相談ください。

腎臓、膀胱、前立腺などの疾患を対象とする科です。尿に異常を感じた時には、いつでもご相談に応じることができます。また、昨今は高齢化、生活の欧米化により、領域も広がっています。その他、腎不全により人工透析が必要な場合には、内科と共に窓口となっています。



放射線科

専門の放射線科医が診断します。

当院で行われるMRIやCTなどの画像診断による検査を支えています。病気に関して、身体の中の状況を画像として映し出し、診断をはじめ病気の発見や治療効果の測定などにも役立っています。また、地域のかかりつけ医の先生方の要請にお応えし、当院の高度検査技術を活用していただく際、必要に応じて診断を行います。



麻酔科

手術中の安全はもちろん、手術後により心地よい覚醒が得られ、より痛みが少ない麻酔をめざしています。

当院は救急指定病院であり手術件数が多いため、現在麻酔科は手術中の麻酔を主な業務としています。しかし、麻酔といっても手術中に単に麻酔薬を投与し眠っていただくだけではありません。麻酔科医は手術を受けられる前に各患者さまの全身状態をくまなくチェックし、一番適していると考えられる麻酔法、麻酔薬や他の投与薬剤およびモニターを選択し、手術・麻酔に臨みます。同時に安心して手術・麻酔を受けていただけるように患者さまおよび必要に応じてご家族の方にも十分な説明を行っています。また、手術中は一時も患者さまから離れることなく呼吸・循環管理を含めたきめ細やかな全身管理を行っています。さらにその管理は術後にもおよび、麻酔科は術前・術中・術後を通してトータルに患者さまに安全で快適な手術・麻酔を受けていただけることを目標に業務を行っています。さらに近年麻酔科では、麻酔の安全性はもとより麻酔の質を高めるべく研究を行っています。いかに快適な状態で手術室に入っただけ、麻酔から覚醒してい

ただけるか、また術後の痛みをいかに軽減できるかを模索しています。



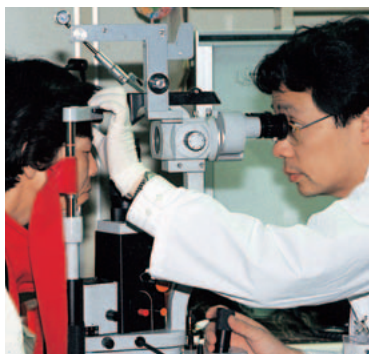
INFORMATION

術後の痛みは、手術を受けられる患者さまにとって大きな心配事であると思います。そこで最近症例によっては、術後の痛みの対策として他の鎮痛手段より優れている硬膜外麻酔を全身麻酔と組み合わせる方法を積極的に行っています。また、覚醒時の快適度に優れた最新の麻酔薬剤などを取り入れるなど、当院では麻酔科専門医の資格を持った医師がつねに患者さまの気持ちを考え麻酔管理を行っています。

眼科

病気に関連して眼に異常のある場合に。

当院診療部の他科で治療を受けられている患者さまを対象として、病気に関連して目に異常を来されている方の診察、治療を行っています。



リハビリテーション科

治療の一環として行うリハビリテーション。

診療部に設置されたリハビリテーション科として、脳卒中、骨折、パーキンソン病など、さまざまな病気や外傷を対象として、リハビリテーションによる治療を行っています。後遺症を最小限に抑え、患者さまができるかぎり早く社会復帰、家庭復帰ができるよう、万全の体制と技術で臨んでいます。



一般病棟

最高水準の看護レベルをクリア、
患者さまの一日も早い回復に取り組みます。



一般病棟（276床）は、手術を控えた患者さまや、手術後まだ病状が不安定な状態にある患者さまのための病棟です。すべての疾患に当てはまるわけではありませんが、一般に病状が落ち着くまで、この一般病棟で過ごすことになります。このため、一般病棟では、医師、看護婦、理学療法士、薬剤師などがチームを組み、高度な医療技術と最先端の医療設備を駆使し、患者さまの一日も早い回復、そして社会復帰を願って、万全の体制で治療にあたります。当院では、主治医制をとっており、治療内容や病状などについて、この主治医がすべてを把握しており、回診の他、患者さまからの個別の面談にも

応じています。また、経過の早い急性期の患者さまの看護については、瞬時の判断が必要とされる場面が少なくありません。さらに、突如として起こったわが身の事態に対応しきれず、戸惑う患者さまやご家族への精神的なフォローも重要です。あるいは、手術や検査を受けられる患者さまの不安を取り除き、安心して治療に専念していただくことは、その後の生活にも、大きな影響を与えるものと思います。このためとくに看護婦を重点的に配置し、さらに個々人の能力や資質の向上について積極的に取り組み、的確な判断ができる知識とノウハウの習得、豊かな人間性を育むことに力を入れています。

INFORMATION

当院では、入院看護基準において、“2：1のA加算”というわが国で高レベルの看護配置をしています。“2：1のA加算”とは、患者さま二人に対して、看護婦一人を配置する体制のことであり、しかも、この看護婦の内、正看護婦が70%以上でなければならないと定められています。馬場記念病院は、もっとも適切な急性期看護が受けられる最高水準の病院であるといえます。

療養病棟＝あいあい病棟

患者さま、ご家族と共に
患者さまの家庭復帰、社会復帰をめざします。



当院では、療養型病棟（153床）と、指定介護療養型医療施設（113床）からなる療養病棟を、「あいあい病棟」と名付けています。長期の入院患者さまに対し、医療面だけでなく、生活面においても、より快適な時をお送りいただけるよう、環境を整えています。治療にあたっては、主治医制をとっていますが、患者さま一人ひとりに対して、医師、看護婦、各療法士などからなる医療チームが編成され、それぞれの専門分野から、患者さまの状態、経過を確認し、治療、看護、リハビリテーションの方針、目標を話しあい、早期の社会復帰や家庭復帰をめざします。また、慢性期の患者さまの看護の場合、

急性期に比べて、医学的治療よりも、看護本来の力が求められます。患者さまの病気、病状に対する看護観察と評価能力の向上が欠かせません。長期の入院というケースでは、治療に取り組むための指導的な役割も重要ですし、病気に対して不安を抱いている患者さまに対しては、精神的なケアなどの看護も必要です。さらに、最近では治療を継続しながら在宅治療へのスムーズな移行も求められるようになりました。このため、リハビリテーション部、医療福祉相談員との連携による在宅療養環境づくり、行政サービスの紹介、訪問看護ステーションへの橋渡しなど、ご自宅での療養生活の不安や負

担を軽減し、患者さまとご家族が安心して療養に取り組める環境を準備していくことも、療養病棟の大切な役割となっています。

INFORMATION

慢性期の患者さまの場合、当然、看護だけでなく、生活面での長期的なケアが必要な方もたくさんいらっしゃいます。さらに入院中の生活を、より快適に過ごしていただくための設備や施設も必要です。当院では、「療養型病床群」および「指定介護療養型医療施設」の指定を受けています。患者さまに対する介護要員の配置、あるいは患者さま一人あたりのスペース、廊下の幅、入浴設備など、細かく、厳しい基準をクリアしたものです。

一般外来

初めての
診察の不安を
少しでも小さく。



馬場記念病院の一般外来は、11診療科を展開し、当地域でも有数の治療技術を持つ優秀な医師を擁しています。医師は、それぞれの専門分野においてすぐれた実績を持っており、この専門性を生かして、患者さまの治療にあたっています。当院の一般外来は、こうした高度な専門的治療と共に、ベガスグループの長年にわたる医療業績をベースとしたきわめて高精度な検査機能と、入院機能をバックと

して、早期の診断と病気の発見、そして早期の対策を講じることができるのが強みであるといえます。また、昨今では地域の診療所との連携が進み、今後、さらに強固なつながりを築くため、診療所からのご紹介を少しでも増やしていくことが必須となっています。このため、当院の外来は、病診連携のステーションとして、診療所の先生方との緊密な関係を維持するためのさまざまな取り組みを行っています。また、初診で訪れる患者さまの病気に対する不安やご質問、あるいは診察後の対処の仕方などについて、看護婦が丁寧なアドバイスを行っています。



救急外来

24時間
万全の体制で、
生命を救う。



当院の救急外来は、開設以来「救急病院」の指定を受け、地域から厚い信頼を寄せられています。救急の連絡を受けると、必要に応じて救急外来では医師や看護婦が待機し、検査室、手術室、そして集中



治療の病室などがスタンバイします。こうした救急体制は、24時間いかなる場合にも受け入れが可能のように、医師、看護婦、検査、事務などの各部門が当直制をとって対応しています。キャッチフレーズだけの24時間体制ではなく、緊急を要する患者さまを絶対お断りしない、というスタンスをとっています。看護婦たちは、緊急の事態にも、医師や技師など救急にたずさわるスタッフと協調して、ムダのない、確かな動きをとります。普段から各部門がシステム化された対応法を整えているのです。救急外来には、急変時の適切な対応力、小さな変化を見逃さない観察力、そして確かな看護知識、看護技術を持つ病棟で豊富な経験を積んだベテランの看護婦が配置されています。さらに、医師の求めに応じて、正確で迅速な検査を行う検査部、あるいは集中治療室（ICU）が、救急外来を万全の体制で支えています。

看護理念：病院の使命を認識し、主体的看護を提供する。

看護方針：豊かな感性を育み、看護の質向上をめざす。
患者さま中心として、他部門と協働する。

ペガサスの理念を具現化する、豊かな感性を。

患者さまにご満足いただける高度な入院機能、外来機能を高いレベルで維持し、質の高い看護を提供するためには、まず看護にたずさわる人々が、病院の使命を明確に認識することが必要です。また、一人の人間として、はっきりとした看護理念を持ち、主体的に患者さまと向き合っていかなければならないと思います。

そのためには、一人ひとりの看護婦に、まず人と響きあう豊かな「感性」が必要でしょう。患者さまはもちろん、医師や同僚、あるいはコ・メディカルスタッフの人々との関係においても、緊張感を保ちつつ、思いやりに満ちたものとしていくためには、この「感性」を育むことが、何よりも大切だと私たちは考えます。

充実した研修プログラムで、つねにステップアップしようとする姿勢を育みます。

ペガサスグループの病院理念、看護理念を体現し、さらに刻々と進化する医療技術や看護技術の動向に関心を持つ看護婦となるため、入職後一年間にあたり、一人ひとりの新入職員に細やかな気配りが行き届くよう、マンツーマンのプリセプター方式を徹底しています。

また、卒後教育として、当初一年間で四回の研修、二年目の看護婦に対するメンバーシップ研修、三年目から五年目を対象としたリーダーシップ研修が用意され、生涯学び続ける姿勢が育まれます。

また、看護の忙しさを科学的に分析するため、忙しさを定量化する調査研究を行い、



自分の看護のあり方を見つめ直し、正確に把握することで、看護の効率化をはかると同時に、自らの看護観を確立することにつなげています。

さらに今、当院では、患者さまからのクレームをロビーに貼りだすようにしています。批判は教材であるとの考え方に立ち、すべてをオープンにし、謙虚に受け止めて、改善していくという姿勢が大切なのだと思います。看護の世界は、一生ステップアップの連続であると、私たちは考えています。

このように、さまざまな取り組みを通じて、つねに患者さまを中心として生き生きと活動し続ける風土を築き、誰もが「ペガサスグループの病院へ行こう」と思っただけの看護を目指しています。

ペガサスグループで看護をめざす方たちへ。

看護の喜びを知ることができる、人間性豊かな風土を築きたい。

ペガサスグループでは、地域医療支援病院に求められる入院機能、外来機能に対して、十二分な看護技術力と、知識、そして、豊かな人間性を持つ人材を求めています。さらに、看護婦には、患者さま、地域住民の皆さまの看護に対する多彩なニーズを敏感にキャッチできる感受性が必要です。

主に求人について担当する看護管理部では、こうした方々と一人でも多く出会い、私たちの職場で、生き生きと働いていただくことができるよう、看護の喜びを知ることができる人間性豊かな風土づくりに取り組んでいます。

放射線部

最新の技術と設備により、
高精度の撮像を行います。

放射線部は、当院の各診療科、および地域の医療施設からの検査依頼に、一般エックス線撮影、胃腸などの透視検査、CT、腹部血管造影、脳血管造影、心臓カテーテル検査、ならびに血管内手術、MRI/A、RI検査（脳血流、心筋、骨、および腫瘍などのシンチグラム）について、24時間体制で対応、緊急性が求められる救急患者さまの検査などに対しても、柔軟に対応しています。

検査にあたっては、正確であること、医師の要望に応える精度であることが求められ、安全であり、また患者さまにとって、不快感を感じない検査であることが重要であると考えています。検査技師の



マナーなどにも留意し、快適な検査環境をめざしています。また、検査は迅速に行われることも大切です。このため、検査効率の向上に努め、予約待時間の短縮化を実現しています。



検査部

「臨床」「生理機能」に関して
万全の検査体制。

◆臨床検査

血液中の酵素や電解質などを測定する生化学検査、赤血球や白血球を計測する血液学検査、尿や髄液などの体液成分測定の一般検査、輸血時に必要な交差適合試験などを行っています。24時間体制で緊急検査にも対応し、迅速な検査結果報告が可能な体制づくりを整備する一方、痛みのひどい患者さまの場合には、ベッドサイドで検査するなど、患者さまの立場に立った検査にも心掛けています。

◆生理機能検査

主に患者さまの体の一部の機能（生理機能）を、機械を使って測定する検査で、心電図、脳波、超音波検査などが含まれます。当院では、とくに超音波診断装置

を使った検査に力を入れており、より良い画像を得るための工夫や新しい技術、知識の習得を行い、医師と連携して診断能力の向上に努めています。また、患者さまの負担軽減や安心して検査を受けていただけるよう、細心の配慮をしています。



リハビリテーション部

安心して任せられる
リハビリテーション部へ。

理学療法士(P T)、作業療法士(O T)、言語療法士(S T)が、患者さまを中心にチームを組み、社会復帰そしてQ O L (Quality of Life=より良い生活の質)を目標として、医学的リハビリテーションの概念のもと、患者さまの一日も早い回復を願い、日々努力しています。一人ひとりの症状に応じた、きめ細やかな治療プログラムを作成し、明確な治療効果を出していくことが、私たちの患者さまに対する責任であり、プロフェッショナルとしての誇りであると考えています。

また、入院中だけでなく、在宅療養中の患者さまに対しては訪問リハビリテーションを行っています。

リハビリテーションに必要なのは機械ではなく、患者さまに対して、どれだけ人間としての心をもって対応できるかであると思います。患者さまの声に真摯に耳を傾け、患者さまとの信頼関係を築き上げ、患者さまの痛みを共有できるようにスタッフの全力をあげて取り組んでいます。



INFORMATION

より一般エックス線のCR化(デジタル)により、従来方式より鮮明な画像が得られるようになります。将来的に、画像はDLT等の記録媒体で保存され、ネットワークで送受信が可能となり、画像の伝送、検索、等の効率化が図られるようになります。

INFORMATION

ご高齢の方や脳卒中等の後遺症の患者さまに嚥下障害(飲み込み障害)を訴えられる方が増えています。嚥下障害により、誤嚥(誤って気管に食べ物が入り込む)性肺炎の危険がたかまります。当院では作業療法士、言語療法士を中心として、嚥下訓練を行い、上手く安全に食べられるように練習し、肺炎予防に役立っています。



INFORMATION

では「カルジオホ」の貸出を行っています。この機器は、自宅で心電図をとって、病院へデータを送ることができるというも自宅での発作時の心電図が記録できるようにするため、不整脈など発作率が高くなり、患者さまの安心につながります。



薬剤部

薬を理解し、
正確に服用して
いただくために。



薬剤部には、主に二つの業務があります。その一つが、「処方せんによる調剤」です。当院は医薬分業（外来患者さまには院外の調剤薬局をご利用いただくというシステム）を行っていますので、調剤は、入院患者さまのみに限られています。処方せんに記された内容にもとづいて正確に調剤することはもちろん、処方内容を理解・分析し、疑問があれば必ず確認するよう心掛けています。そして、もう一つの業務が「服薬指導」です。これは週に一回、注射、内服、外用のいずれかに処方がある患者さまと面談させていただくものです。患者さまに、より安心してお薬を服用・使用していただくために、医師の指導のもと、お薬の効き目や服用・使用方法の説明をさせていただき、きちんと服用・使用が行われているかの確認をさせていただきます。的確な指導が行えるように、一人ひとりの患者さまにつ

いて薬歴（服用・使用されているお薬の内容）を確認し、指導内容を記録しています。また、お薬に関連したことについて、いろいろ問い合わせにも対応できるように努めています。



INFORMATION

服薬指導記録のカルテ掲載を考えています。スタッフ間で患者さまの情報を共有することで、服薬などの問題点の明確化、改善に役立つものと期待しています。また、お薬についてのしおりなども作成・配布できたらと考えています。退院し、在宅療養になれば、とすれば正しい服薬が難しくなりがちなので、ご家族を含めた服薬指導も重要になってくると考えています。

栄養部

「美味しかった」と
満足いただける
病院食の
献立づくりを。



栄養部では、入院患者さまに提供する食事の献立立案、作成と、入院・外来患者さまへの栄養指導を主に行っています。とすれば病院食は、不味いというイメージが付きものですが、患者さまのご意見に耳を傾け、献立づくりに反映させ、

栄養士や厨房職員に伝えていき、栄養面はもちろん、見た目にも患者さまに「美味しかった」と言っていただけの食事をめざしたいと思います。患者さまにお好みのものを選択していただけるメニューもその一つの試みといえるでしょう。また、随時マンツーマンで栄養相談を行う他、お一人お一人の知りたいことや、病気、病状に合わせて、栄養指導を行っています。将来的には、在宅医療分野にも参画し、チーム医療の一員として、「食生活」の分野から患者さまの健康を見守っていきたいと思います。

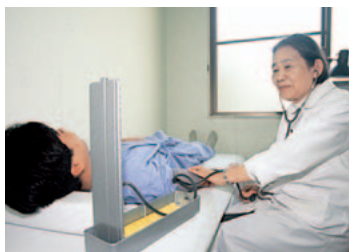


INFORMATION

ご意見箱や食事嗜好調査の結果など、患者さまからの声を、栄養部だけでなく、病棟スタッフ全体で共有することにより、患者さまに少しでも満足いただける治療食の献立づくりを手掛けていきたいと思っています。

健診室

ご自分の身体に気をつけて
いただく習慣を。



今後ますます重要性が高まると思われる「予防医療」の分野を担当、日帰りドックを中心として脳ドックや心臓ドックなどの人間ドック事業と企業健診、市民検診などを行っています。急性期医療に関する豊富な経験や、鍛え抜かれた医療技術、先進の設備を生かし、さらに専門医的確かな所見と合わせて、正確な診断を実施。身体の発信するサインを素早く見

つけ、地域の皆さまの健康な生活を支える健診室でありたいと願っています。

INFORMATION

堺市をはじめ各市を対象に行う人間ドック事業。なかでも高石市の国民保険ドックの脳ドックについて、委託契約をしています。自治体からも、当院の「脳ドック」に関する豊富な経験やノウハウが認められました。

医療福祉相談室

患者さまの立場に立ち、さまざまな
問題解決のお手伝いをします。



医療福祉相談室では、病気やけががもとでおこった経済的、社会的、心理的な心配事、療養に伴う不安等について、医療福祉相談員がご相談をお受けし、問題解決のお手伝いをしています。たとえば、医療費の支払いについて、病院や施設のご紹介、あるいは自宅での介護の問題・・・など。もちろんご相談は無料。相談の秘密は絶対に守ります。

INFORMATION

医療ソーシャルワーカーは、つまり福祉の専門家。一般の方々にはともしればわかりにくい医療という世界で、患者さまの視点から、患者さまと共に考え、患者さまをサポートします。

地域医療支援室

病診連携推進に向けて、地域の
診療所とのパイプ役を果たしています。



各診療所の先生方よりご紹介された患者さまの外来受診、入院、検査予約の手配などを行っています。また逆に、当院から診療所の先生方へ患者さまをご紹介し、患者さまのホームドクターをお探しするお手伝いもしています。診療所の先生方と患者さまや医療技術に関する情報の共有を推進し、当院とのスムーズなコミュニケーションをはかるために重要な役割を担っています。

INFORMATION

診療所の先生方に対して、当院の「開放型登録医」となっていただくようお願いに上がっています。また、登録医控室を新設し、先生方が来院された場合、診察の合間にゆっくりお休みいただける場を設けました。

事務部

院内の各組織が円滑に活動できる
環境づくりを通じて、患者さまに
選んでいただける病院へ。



馬場記念病院事務部は、庶務課、施設・用度課、医事課の三課制で構成され、主に診療管理等の業務にたずさわっています。“自らが、または家族が安心して治療を受けられる病院づくり”を目指して日々努力をしています。今後も診療部、看護部をはじめとする各部門との連携をさらに緊密にし、組織全体を支えるサポーターとして、当院の医療が円滑に進行できるよう、より一層の努力をしていき

たいと考えています。また、自由競争の時代にあって、私たちの病院が、その個性を発揮し、患者さまを第一に考え、患者さまの立場に立ったサービスを提供することができるよう、医師等の医療スタッフの確保、医療機器の整備、施設のアメニティ向上、職員のマナー充実など、あらゆる面にきめ細かく取り組み、すべての面で患者さまに選ばれる病院にならなければならないと考えています。

馬場病院

地域と共に生き、
地域の皆さまの健やかな
暮らしを見守り続けます。

地域の皆さまに親しまれ、愛され、

信頼され続けてきた四半世紀の歴史を糧に、

馬場病院は、これからも地域の人々の生活を支える

病院でありたいと願っています。



皆さまとの深いつながりを大切に、そして誇りとして。

馬場病院は、昭和52年に開設されて以来、長年にわたって地域の皆さまのお付き合いを、積み重ねてまいりました。創設者である馬場満は、地域の皆さまとの深いつながりを何よりも大切にし、またそのつながりを誇りにも感じていたようです。しかし、その絆の原点となったのは、馬場病院の高い医療技術であることはいまでもありません。

今日、「療養型病床群」および「指定介護療養型医療施設」の認定を受け、「救急指定」は返上いたしました。馬場記念病院との緊密な関係の中で救急医療機関としての機能を維持し、またペガサスグループの一員として慢性期医療分野、在宅療養分野を強化し、地域と共に生きる医療ネットワークを支えながら、地域の皆さまの健やかな暮らしを、今後共見守り続けたいと考えています。



「病気」を診るだけでなく、「生活」を見守ります。

馬場病院では、脳神経外科・外科・整形外科・内科の診療科を持つ病院として、医師をはじめ各分野専任のスタッフが充実して揃っています。さらに専門性の高い分野においては、ペガサスグループの馬場記念病院の医師（スタッフ）が派遣されています。規模は小さくても、馬場記念病院とまったく同等の治療が受けられるわけです。また、救急医療に関して高度な医療技術と設備を有する馬場記念病院との連携により、馬場病院での診断で入院や高度な専門的治療、あるいは高精度の検査が必要であると判断された場合、馬場記念病院へ転送され、ここで治療を受けることができます。地域に密着した病院という基本路線を守りつつ、患者さまの病気や病状、あるいはご希望に応じて、どのような種類の治療も可能なのです。いわば、馬場病院は地域の皆さまの「かかりつけ医」であるといえます。皆さまも、決して自己判断をしないで、



ちょっとした症状や健康に関することは、何でも馬場病院の外來にご相談ください。また、日頃から「かかりつけ医」としてご利用いただいている場合は、患者さまの病歴や体質を知り尽くしていますから、迅速な対応が可能です。反復して様々な病気にかかる幼小児や、継続して様々な病気にかかる高齢者がいらっしゃるご家庭では、なおさらです。単に「病気」を診るだけでなく、皆さまの「生活」を見守り、皆さまの健康を維持し、病気の早期発見と、より良い治療につなげていきたいと考えています。



INFORMATION

平成12年に施行された「介護保険制度」にもとづき、当院は、「指定介護療養型医療施設」の認定を受けました。全病床60床の内、40床をこれにあて、高度な医療技術をベースとして、患者さまに適切な介護サービスを提供できる体制づくりに取り組んでいます。介護保険の介護認定を受けて入院される方について、介護やリハビリテーションなど、必要な医療と生活のお世話をいたします。

入院からご自宅での生活までトータルに考えます。

馬場病院では、平成11年に「療養型病床群」、平成12年には「指定介護療養型医療施設」の認定を受けました。長期入院患者さまがより快適に療養生活を送ることができる環境づくりに努める一方、ペガサス訪問看護ステーション和泉、ケアプランセンター和泉を敷地内に擁し、これらの機能との連携によって、充実した在宅療養支援体制を整備しています。もちろんデイケア室も整備され、自宅で生活する障害を持ったお年寄りの健康管理

のお手伝いをしたり、家庭や社会で孤立しがちなお年寄りに活動の場を提供し、意義ある家庭・社会生活を過ごせるように働きかけ、家族の介護負担を軽減するお手伝いをしています。もちろんリハビリテーション部もあり、機能回復の治療を受けることもできます。慢性期の患者さまの入院から、退院後のご自宅での介護生活までをトータルに視野に入れ、それぞれの機能を有機的に結びつけて医療サービスを提供しています。



在宅療養支援

より深く、地域とのきずなを。
より広く、この町の人々の
期待に応えて。

これからの病院のあり方を考える時、

施設と患者さまのご自宅を結び、

適切な在宅医療支援サービスを提供することが、

何よりも大切であると考えています。



長寿を皆で喜び、皆で支える町づくりに貢献します。

あと15年もすれば四人に一人が高齢者になるとされる超高齢社会を目前として、ペガサスグループでは、在宅療養支援にも力を注いでいます。施設医療、在宅医療、そして介護と、三つの分野について連続的に高度なサービスを提供し、地域のお年寄りに、長生きを喜んでいただける町を築く一端を担いたいと考えています。在宅療養支援の分野では、これまで医療保険事業として対応していた「訪問看護」「訪問リハビリテーション」が、介護保険でも対応できるようになりました。また、介護保険に対応する機能として「通所リハビリテーション（デイケア）」「ショートステイ」「訪問介護」の三つを整備し、あわせて五つの機能に

よってトータルに在宅療養支援が可能な体制を用意しております。利用者の立場に立ち、利用者が本当に必要とする在宅療養のあり方を、地域の皆さまと共に考えながら、利用者のためのサービスを提供していきたいと思っております。



ケアプランセンター

ご相談からご利用まで、
ご利用の方の立場に立って、
介護サービスを考え、
立案します。

皆さまが介護保険制度を利用し、介護サービスを受けていただくためには、事前の準備が必要です。ペガサスケアプランセンターでは、保健、医療、福祉の分野でそれぞれ個別に行ってきた各々のサービスを、ご利用される方の立場に立って一つに統合し、その窓口となってご利用の方に最適のサービスを提供することを目的としています。そのため、他のサービス機関との連絡調整や担当者間での会議など、サービスの質の評価や見直しな

ども日常的に行い、皆さまが満足のいくサービスを受けられるよう、ケアチームを編成して取り組んでいます。



INFORMATION

ケアプランセンターでの主な仕事は、大きく分けて、次の4つになります。

1. 介護保険全般についてのご相談をお受けします。介護保険制度についての不安や疑問についてお答えします。
2. 要介護認定の代行申請を行います。介護サービスを利用されるための「要介護認定」の申請手続きを代行します。
3. ケアプランを作成します。介護サービスの種類と回数、組み合わせなどを決める「ケアプラン」を、ペガサスのケアマネージャーが作成。一人ひとりのご要望や状況にもとづき、最適かつ必要十分な計画を作成します。
4. 訪問調査にお伺いします。市町村から訪問調査の依頼があれば訪問調査にお伺いします。

訪問看護ステーション

ご利用の方の住み慣れた家、暮らし慣れた町で、より質の高い療養生活を。



「訪問看護ステーション」は、高齢者をはじめ、家庭で寝たきりの状態の方が、住み慣れたご自宅や地域社会で療養できることをサポートするためのものです。在宅療養を必要とする患者さまが在宅でも安心して療養生活を送れるよう、かかりつけの医師の指示にもとづいて看護婦がご自宅を訪問し、看護や介護サービスを提供します。

また、ペガサスグループでは、単に訪問看護ステーションを単独のサービスとして捉えるのではなく、外来から入院、そして退院後までの一貫した流れの中で、安心して高度なレベルの医療が受けられるシステムとして捉えています。いざという場合には、馬場記念病院の高度な医療・看護・検査技術で、また長期入院を

必要とされる場合には、充実した療養環境を持つ馬場記念病院および馬場病院の慢性期病棟で、ご利用の方を全面的にバックアップします。

現在、ペガサスグループとしては、堺市に二カ所と、和泉市、泉北郡忠岡町に、あわせて四カ所設置されており、いずれのステーションでも、単に健康面のチェックだけでなく、ご利用の方とご家族を深く理解し、その精神面までを含めたサポートを行うことを「訪問看護」と考えています。

このため、一人ひとりの訪問看護婦が、ご利用の方とご家族との信頼関係を築きながら、その療養生活を広く、豊かにサポートできるよう、「共に喜び、共に泣く」という姿勢で取り組んでいます。

INFORMATION

ご自宅での療養は、それぞれ環境や社会的背景なども異なるため、千差万別の医療サービスが求められます。このため、訪問看護にあたっては、「訪問看護ステーション」との連携なども視野に入れ、看護婦とホームヘルパーが一緒になってご利用の方のために、より快適な生活を送ることができるよう、一人ひとりにより手厚く、またきめ細やかなサービスが行き届くようにしています。

訪問看護ステーション

堺市、和泉市、泉北郡忠岡町に四カ所。
安心と信頼のネットワークです。

訪問看護ステーションは、下図の範囲を対象として、訪問看護を実施しています。地域のかかりつけ医との連携、またはペガサスグループの病院や在宅サービス機関との連携をはかり、一貫した流れの中で、ご自宅での高度な医療・介護サービスが受けられることを前提とした布陣となっています。また、24時間体制の連絡・相談窓口を設置しており、緊急時にも速やかに対応できる体制を整えています。



●ペガサス訪問看護ステーション和泉
(和泉市・高石市・泉大津市)

●ペガサス訪問看護ステーション
(堺市・高石市)



●ペガサス訪問看護ステーション忠岡
(忠岡町・泉大津市・岸和田市・和泉市)

●ペガサス訪問看護ステーション八田
(堺市・高石市)



ペガサス訪問リハビリテーションセンター

患者さまの自立した日常生活を支援します。

退院後、在宅療養をされている方でリハビリテーションを必要とされる方を対象として、スタッフがご自宅を直接訪問し、理学療法、作業療法、嚥下訓練など、必要なりハビリテーションを実施しています。対象となる地域は、堺市、和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町が中心で、通所が困難な方などに大変好評です。ご自宅で、ご本人が状態の改善に向けて、日々努力していただけるよう患者さまだけでなく、ご家族の協力もいただきながら取り組んでいます。



デイケアセンター

細やかな気配りで、笑顔がはずむデイケアへ。

ご自分の力で外出することができず、室内に閉じこもりがちなお年寄りを対象として、送迎からリハビリ、作品作製、集団ゲームなどのレクリエーション、そして入浴などを行っています。ご家族のご自宅での介護を軽減しながら、理学療法士が作成した、一人ひとりに最適の機能プログラムで、ご本人の明るい笑顔や会話を少しでも取り戻し、安定した生活を送るお手伝いができたらと考えています。



ショートステイ

指定介護療養型医療施設への入所を必要とされる方にご利用いただいています。

在宅療養中でさまざまな理由により、短期入所をご希望される方のために、ショートステイサービスを行っています。介護保険制度におけるサービスの一環として、馬場記念病院医療福祉相談室が窓口となり、ご家族から直接のご連絡や、他の在宅サービス機関からの紹介などにより、お申し込みを受けています。自宅から病院までなどの送迎も行い、二週間程度にわたって患者さまをお預りします。もちろん入所期間中は、リハビリテーションなど必要な医療を行います。



在宅サービスセンター

適切な介護用品で、快適な暮らしを。

介護用品の販売、レンタル仲介、およびそのご相談に応じています。介護用品は、患者さまの病状や身体の状態に応じて、必要とされる品や種類が、それぞれ異なります。患者さまにとって最適なもの、専門スタッフと協議してお選びするのも、在宅サービスセンターの大切な仕事です。また、介護保険制度などご利用できる場合もありますので、その手配やご相談をさせていただきます。入院中、退院準備、ご自宅での介護を問わず、どなたにもご利用いただけます。



ユニコ訪問介護ステーション

地域医療に貢献できる、特色ある訪問介護事業の確立を。



有限会社ユニコは、介護保険法の施行にともない、ペガサスグループをサポートし、訪問介護事業に取り組む会社としてスタートしました。泉州六市町を対象に、介護を必要とされる方々の不安や負担を少しでも軽減し、また、よき相談相手になれるよう二級以上の資格を持ったホームヘルパーが責任をもってお世話いたします。さらに、関連会社としての立場を生かして、介護関連用品の斡旋や情報提

供など、特色ある訪問介護ステーションをめざします。

INFORMATION

在宅医療の分野では、マンパワーの充実に欠かせません。ユニコでは優秀なホームヘルパーを派遣できるステーションとしての高い評価をめざして、ホームヘルパー養成講座にも取り組んでいます。



All About Peg





1 out ASUS





『ペガサスの約束』

すべての真ん中にいるのは、患者さまです。
はりつめた瞬間も、案ずる時間も、
そしてゆるやかな日々も、ともに過ごします。
すべてを支えているのは、人と、町とのきずなです。
どこから見ても、誰にでも、
よくわかる病院であり続けます。
ふるえる心に、よりそい。
待ちわびる思いへ、語り。
新たな願いと、手をたずさえ。
一つひとつの生命を、まっすぐにどこまでも
見つめていきます。